

2018年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 9
III. 2018年3月期通期の業績予想	P. 10-
IV. 経営計画の進捗状況	P. 16

2017年10月31日

I. 経営状況



A. 2018年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2018/3期 2Q累計実績 ①	2017/3期 2Q累計実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	2Q累計予想 (7月31日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	進捗率 ⑦=①÷⑤ ×100
売上高	9,561	9,092	468	5.2	9,610	△48	99.5
営業利益	322	244	77	31.8	310	12	104.0
経常利益	344	281	63	22.4	330	14	104.5
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	215	182	32	17.9	200	15	107.9

（億円未満切捨て）

※ 2018/3月期より、当社および一部の国内連結子会社において、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更、および一部の車両運搬具の耐用年数の変更を実施しております。
⇒ 第2四半期累計で、営業利益および経常利益が、33億円増加しております。

2) 第2四半期累計 連結経営指標 () は前年同期実績

・売上高営業利益率 3.4％(2.7％) ・売上高経常利益率 3.6％(3.1％)

【ご参考】 () は前年度実績

・ROA 2.8％(2.4％) ・ROE 7.8％(6.9％)

※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は、前連結会計年度末と当連結会計期間末の平均値を使用し、算出しております。

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

海外経済が緩やかに回復するなか、企業の生産活動や設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は、緩やかな回復基調で推移。

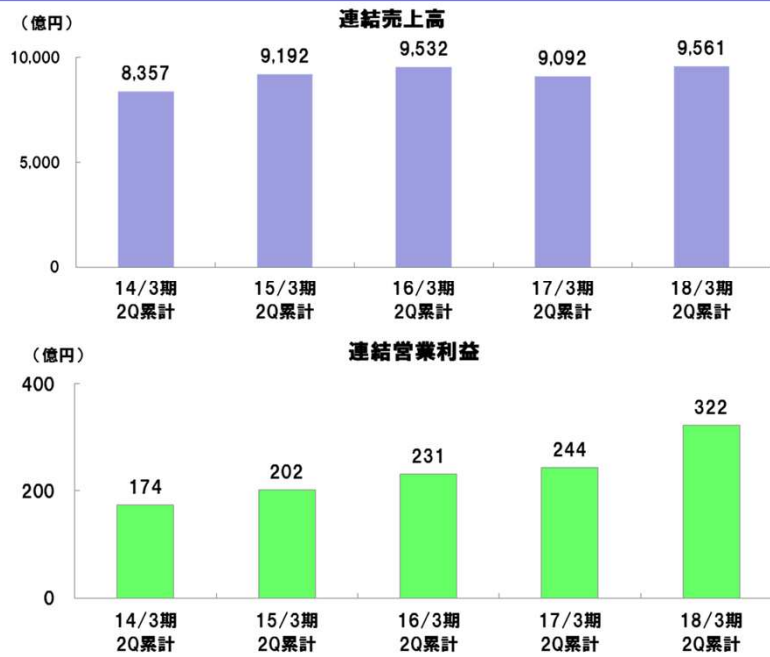
◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国内貨物は、依然として、荷動きに力強さを欠いたものの自動車部品や鉄鋼などの輸送需要が増加し、国際貨物では、アジア向けを中心として、電子部品等の航空貨物が好調を維持するなど、総じて堅調に推移。

I. 経営状況



B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2018年3月期第2四半期決算説明会資料

2

◇売上高の推移

対前年で、468億円、5.2%増加。

国際貨物の堅調な荷動きを背景に、お客様の動向を的確に捉え、売上高を増やすとともに、海外の各地域が取扱いを伸ばし、すべてのセグメントで増収。

◇営業利益の推移

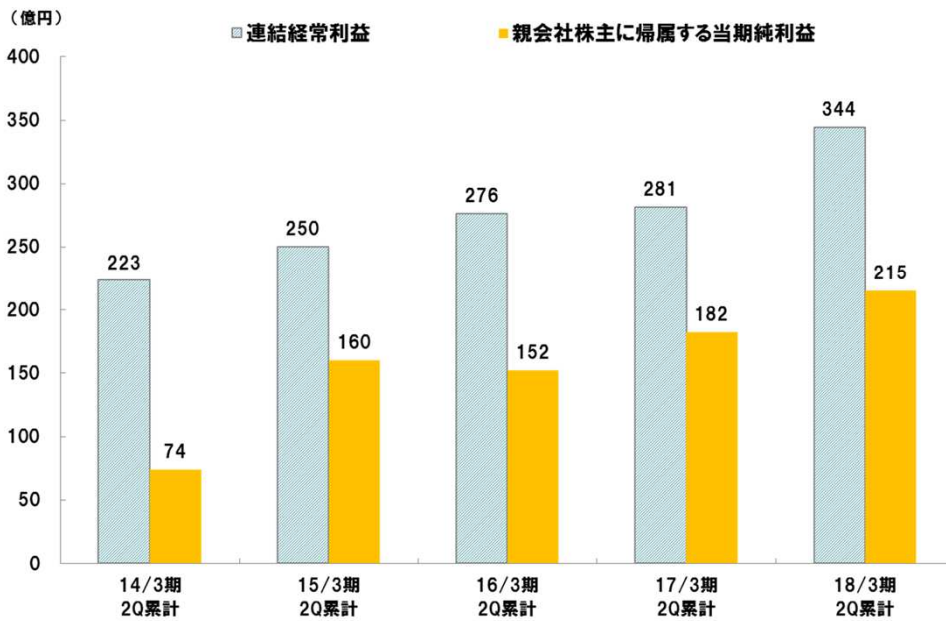
対前年77億円、31.8%増加。

利用運送費や外注費の増加、燃油費の上昇や為替の影響があったが、それらの影響を上回る売上高の増加により、すべてのセグメントで増益。

なお、有形固定資産の減価償却方法の変更により、従来の方法によった場合と比べ、営業利益が、33億円、増加。

I. 経営状況

C. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



◇経常利益の推移

対前年63億円、22.4%の増加。

営業外収益は、前年にあった持分法による投資利益の減少や軽油引取税交付金にかかる経理処理の変更により、19億円減少。営業外費用は、前年にあった社債発行関連費用の減少等により、4億円減少。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益の推移

対前年32億円、17.9%の増加。

特別利益は、前年に、海外連結会社の段階取得にかかる差益を計上していたことなどから、30億円減少。

特別損失は、前年に、熊本地震にかかる災害損失を計上していたことなどから、5億円減少。

I. 経営状況



D. 財政状態

(単位：億円、%)

	2018/3期 第2四半期末	2017/3期末	増減額
総資産	15,352	15,218	134
自己資本	5,595	5,363	231
自己資本比率	36.4	35.2	-

E. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2018/3期 第2四半期累計期間	2017/3期 第2四半期累計期間	増減額 (前年比)
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	459	459	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△657	△335	△322
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△198	124	△322
財務活動によるキャッシュ・フロー	△213	501	△715
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,218	2,014	△795

(ご参考)	2018/3期 第2四半期累計期間	2017/3期	増減額 (前年度末比)
現金及び現金同等物の四半期末残高/期末残高	1,218	1,633	△415

◇財政状態

2017年9月末の総資産は、前年度末に比べ、134億円、0.9%の増加。

◇キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の残高は、前年度末に比べ、415億円減少。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

1) 日本

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	5,842	5,662	179	3.2	5,831	100.2	11
	セグメント利益	200	164	36	21.8	201	99.9	△0
2Q単四半期	売上高	2,939	2,866	72	2.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	99	84	14	17.4	3.4 (3.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道輸送、トラック輸送の取扱いが堅調に推移 ・海運は、機械関連部品や自動車の設備輸送の輸出、アパレル関係の輸入が堅調に推移 ・航空は、自動車関連部品、北・中米向けの機械部品、アジア向けの電子部品等、輸出貨物重量が伸長 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が14.7億円増加 						

2) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	448	419	29	7.0	470	95.4	△21
	セグメント利益	27	24	2	11.4	25	108.3	2
2Q単四半期	売上高	227	209	18	8.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	19	17	2	15.4	8.6 (8.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・航空の輸出入が好調に推移 ・倉庫配送業務が堅調に推移 						

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第2四半期決算説明会資料

5

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇日本・・・増収、増益

鉄道輸送では、自動車関連部品や青果物の取扱いが増加。

トラック輸送において、鉄鋼や自動車関連部品の荷動きが堅調に推移。

海運では、機械関連部品や自動車の設備輸送の輸出、アパレル関係の輸入が堅調。

航空では、輸出混載貨物の重量が、マーケットの伸び率を大きく上回る。

各方面で、自動車関連部品が堅調に推移。

北・中米向けの機械部品や、アジア向けの電子部品等の荷動きが好調に推移。

◇米州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

前年にあった設備関連の反動減により、

海運輸入の減少はあったものの、航空の輸出入が好調、

倉庫配送業務も堅調に推移。

Ⅰ. 経営状況



F. セグメント別状況

3) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	438	391	47	12.0	443	98.9	△4
	セグメント利益	17	8	8	102.0	17	101.7	0
2Q単四半期	売上高	223	198	25	12.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	9	4	4	92.8	4.1 (2.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・航空輸出が回復し、オランダにおける倉庫配送業務の取扱い伸長 ・イタリアは、アパレル関連の海運輸出が増加し、ドイツを中心に、自動車関連や機械部品の荷動きが好調に推移 ・フランス、スペインにおける非日系顧客の取扱い拡大 						

4) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	547	476	71	15.0	541	101.3	6
	セグメント利益	7	5	1	28.7	8	96.1	△0
2Q単四半期	売上高	279	235	43	18.6	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	5	△2	△35.7	1.3 (2.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、増収減益 ・倉庫配送業務とトラック輸送が、堅調に推移 ・航空輸出の荷動きが回復したが、中国におけるチャーター便規制に伴う航空利用費の高騰により、減益 						

◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

航空輸出が昨年から回復し、オランダにおける倉庫配送業務の取扱いが伸長。

イタリアでは、アパレル関連の海運輸出が増加し、

ドイツを中心として、自動車関連や機械部品の荷動きが、好調に推移。

フランス、スペインにおける非日系顧客の取扱いも拡大。

◇東アジア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

倉庫配送業務とトラック輸送が、堅調に推移。

航空輸入、海運輸出入に加え、主力である航空輸出も回復。

中国におけるチャーター便規制の延長に伴う、航空利用費の高騰により、減益。

1. 経営状況



F. セグメント別状況

5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月31日発表)対比			
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	395	341	53	15.8	396	99.8	△0
	セグメント利益	16	11	5	46.1	15	108.9	1
2Q単四半期	売上高	201	176	24	13.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	6	2	34.3	4.2 (3.6)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・地域全体で、倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移 ・非日系顧客の医薬品や電子部品関連の航空輸出が好調に推移						

6) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月31日発表)対比			
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	286	274	12	4.6	287	100.0	△0
	セグメント利益	8	4	4	96.5	8	109.9	0
2Q単四半期	売上高	143	136	6	4.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	0	3	694.0	2.5 (0.3)		
	概況	・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販による、地方金融機関からのアウトソーシング推進 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が1.8億円増加						

◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

地域全体で、倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移。

非日系顧客の医薬品や、電子部品関連の航空輸出が好調。

◇警備輸送・・・増収、増益

キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、

地方金融機関からのアウトソーシングの取込みを推進。

1. 経営状況



F. セグメント別状況

7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	248	222	26	11.7	241	103.2	7
	セグメント利益	23	17	5	32.2	21	111.7	2
2Q単四半期	売上高	125	116	8	7.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	10	3	30.1	10.9 (9.1)		
	概況	・国内において、シャットダウン・メンテナンス業務と重電関連工事などが堅調に推移 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により、利益が8千万円増加						

8) 物流サポート

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月31日発表)対比				
		18/3期	17/3期	増減額	増減率	上期予想	達成率	差額
2Q累計	売上高	2,042	1,920	122	6.4	2,056	99.4	△13
	セグメント利益	53	33	19	58.1	52	102.4	1
2Q単四半期	売上高	1,035	979	55	5.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	28	20	7	37.9	2.7 (2.1)		
	概況	・石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が堅調に推移 ・軽油引取税交付金の経理処理変更により2.1億円、利益が増加 ・有形固定資産の減価償却方法の変更により1.1億円、利益が増加						

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産他)

◇重量品建設・・・増収、増益

国内において、シャットダウン・メンテナンス業務と重電関連工事などが堅調に推移。

◇物流サポート・・・増収、増益

日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上高が増加。

輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結業績への影響 (第2四半期累計)	参考
燃油費単価変動 による影響	燃油費 +10.9億円 (費用増) ※2Q単四半期 +4.4億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 86.12円/ℓ (75.79円) ガソリン : 120.18円/ℓ (110.23円) 船舶重油 : 41.24円/ℓ (32.70円)
為替による影響	売上高 Δ16.1億円 営業利益 Δ0.1億円 ※2Q単四半期 売上高 +9.5億円 営業利益 +0.3億円	第2四半期累計期間平均為替レート (前年同期) USD : 112.37円 (111.81円) EUR : 121.64円 (124.63円) HKD : 14.46円 (14.40円) RMB : 16.39円 (17.07円)

「第2四半期累計期間平均為替レート」は、参考値。
 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	9,561	9,838	9,550	288	3.0	19,400	19,400	-	-
営業利益	322	367	329	37	11.5	690	670	20	3.0
経常利益	344	375	356	18	5.3	720	700	20	2.9
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	215	214	181	32	18.0	430	420	10	2.4

（億円未満切捨て）

連結通期の業績予想について、7月31日に発表した数値を修正。

◇業績予想の前提となる経営環境

国内経済は、引き続き、緩やかな回復基調で推移し、底堅い企業収益や、設備投資の増加を期待。
世界経済は、各地域とも、堅調な経済指標を示しているが、北朝鮮情勢や米国における政治的リスクなどにより、不確実性が継続。

◇業績予想の前提となる物流業界の状況

国内貨物は、依然として荷動きに力強さを欠くものの、海外の各セグメントにおいて、航空運送を中心とした輸送需要が堅調に推移。

III. 2018年3月期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

1) 日本

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			過期予想 (17/10/31発表)	過期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	5,842	5,979	5,894	85	1.4	11,822	11,814	8	0.1
セグメント利益	200	250	221	28	12.8	451	454	△3	△0.7
概況	<ul style="list-style-type: none"> 各扱いにおいて、荷動きが継続する一方、利用運送費や外注費が上昇する見込み ワンストップ営業、アカウントマネジメントの強化によるグローバル顧客の拡大と、オペレーションの更なる効率化に注力 								

2) 米州

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			過期予想 (17/10/31発表)	過期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	448	481	419	62	14.9	930	946	△16	△1.7
セグメント利益	27	23	23	0	2.1	51	51	—	—
概況	<ul style="list-style-type: none"> 自動車関連や医薬品等の航空輸出が、好調を維持する一方、各種費用が増加する見込み 								

◇日本

各扱いにおいて、現在の荷動きの継続を予想するが、利用運送費や外注費の上昇を見込む。
ワンストップ営業、アカウントマネジメントの強化による、グローバル顧客の拡大と、オペレーションの更なる効率化に注力。

◇米州

自動車関連や医薬品等の航空輸出が、好調を維持する見込みだが、各種費用の増加を予想。

III. 2018年3月期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

3) 欧州

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	438	487	401	86	21.4	926	885	41	4.6
セグメント利益	17	19	11	7	67.8	37	35	2	5.7
概況	・非日系顧客の取引拡大と、アパレルや自動車関連の取扱いが、堅調に推移する見込み								

4) 東アジア

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	547	581	540	40	7.4	1,129	1,084	45	4.2
セグメント利益	7	9	5	4	79.1	17	19	△2	△10.5
概況	・自動車関連、電子機器関連の取扱いが、堅調に推移する見込み ・航空利用費の高止まりは、年内は継続する予定								

◇欧州・・・増収、増益

非日系顧客の拡大と、アパレルや自動車関連の取扱いが堅調な見込み。

◇東アジア・・・増収、増益

自動車関連、電子機器関連の取扱いが、堅調に推移する見込みだが、航空利用費の高止まりは、年内は継続する予定であり、回復の遅れを予想。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

5) 南アジア・オセアニア

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	395	459	362	97	26.9	855	805	50	6.2
セグメント利益	16	19	13	5	43.7	36	31	5	16.1
概況	・電気製品、電子部品などの輸出が堅調に推移し、非日系顧客の取扱いが拡大する見込み								

6) 警備輸送

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比			通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率
			2017/3期 下期実績	増減額	増減率				
売上高	286	286	273	12	4.6	573	568	5	0.9
セグメント利益	8	9	5	4	78.0	18	16	2	12.5
概況	・金融機関からのアウトソーシングの獲得を推進								

◇南アジア・オセアニア

電気製品、電子部品などの輸出が堅調に推移し、
インド発の医薬品など、非日系顧客の取扱いが拡大する見込み。

◇警備輸送

金融機関からのアウトソーシングの獲得に注力。

Ⅲ. 2018年3月期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

7) 重量品建設

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率	
			2017/3期 下期実績	増減額					増減率
売上高	248	209	247	△37	△15.4	458	461	△3	△0.7
セグメント利益	23	17	21	△3	△16.8	41	36	5	13.9
概況	・シャットダウン・メンテナンス業務が、上期で一段落 ・重電関係工事の獲得に注力								

8) 物流サポート

（単位：億円、％）

	2018/3期 上期実績	2018/3期 下期予想	前年同期対比		通期予想 (17/10/31発表)	通期予想 (17/7/31発表)	増減額	増減率	
			2017/3期 下期実績	増減額					増減率
売上高	2,042	2,160	2,119	40	1.9	4,203	4,263	△60	△1.4
セグメント利益	53	57	66	△8	△13.1	111	106	5	4.7
概況	・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が、堅調に推移する見込み								

（日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産他）

◇重量品建設

シャットダウン・メンテナンス業務が、上期で一段落するが、重電関係工事の獲得に注力。

◇物流サポート

輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業が堅調に推移する見込み。

III. 2018年3月期の業績予想



C. 外部要因の前提

変動要素	連結業績への影響 (下期)	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 +1.5億円 (費用増)	<p>(前期年間平均)</p> <p>軽油 : 86.06円/ℓ (79.87円) ガソリン : 119.94円/ℓ (113.79円) 船舶重油 : 40.09円/ℓ (36.10円) ・使用量は、前年と同量と想定。</p>
為替による影響	売上高 +131.3億円 営業利益 +5.0億円	<p>年間為替レート</p> <p>(前期年間平均)</p> <p>USD : 112.10円 (108.84円) EUR : 126.50円 (120.33円) HKD : 14.30円 (14.02円) RMB : 16.50円 (16.37円)</p> <p>「年間為替レート」は、参考値。 決算では、四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用。</p>

IV. 経営計画の進捗状況

A. 日通グループ経営計画 2018 -新・世界日通。-

国内(日本)事業の収益性を更に向上させ、真のグローバルロジスティクス企業となるべく、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を着実に実行する。



- ◇「機能戦略」と「エリア戦略」の二つの軸を融合し、
日本は、「成長性と収益性の両立」を図る地域として、
海外は、「日通グループの成長を牽引」する地域として、
計画の達成に向けて、取組みを推進。

IV. 経営計画の進捗状況



B. 日通グループ経営計画2018 - 新・世界日通。 - 重点戦略の進捗状況

重点戦略	項目	進捗状況	
エリア戦略	日本 「成長性」と「収益性」 の両立	東京・名古屋・大阪を始めとする 大都市圏におけるグローバル企業との 取引拡大 ・「オートモーティブ事業支店」設置	
	国内事業の強化と新規事業軸の構築	・「ネットワーク商品事業本部」設置 ・「NEX-NET:Sea & Rail 東京ランドブリッジWB」販売開始 ・「Narita Temperature Controlled HUB」新設 (=大型冷凍・冷蔵施設) ・「TempSure Thermo ULD」に新温度帯(2℃~8℃)の サービス新設(→医療・医薬品輸送に対応可能)	
海外 日通グループの 成長を牽引	米州、欧州、東アジアでの収益性向上	・アフリカで初となる営業拠点「ケニア支店」開設 ・米墨間物流の重要エリアであるテキサス州ラレド拠点を 移転・拡充(新施設名称:「ラレドロジスティクスセンター」)	
	南アジア・オセアニアにおける成長	・ミャンマーに「ティラワ・ロジスティクス・センター」開設 ・インドネシアに「バリクパパン営業所」開設 ・ミャンマーに「ミャワディ事務所」開設 ・インドネシアでの「食品関連」「電機・電子関連」の 保税物流センターのライセンス取得	
機能戦略	営業力の徹底強化	非日系企業への営業拡大	・「グローバル・ロジスティクス・イノベーションセンター」開設
		アカウントマネジメントの強化	・「オートモーティブ事業支店」設置
	コア事業強化と 高度化	イントラアジア圏におけるネットワーク拡充	・「南アジア・オセアニア日本通運メコン開発センター」開設
		アジア発着トラフィックの取扱い拡大	・カザフスタン鉄道との業務提携

Copyright © 2017 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2018年3月期第2四半期決算説明会資料

17

◇日本における取組み

- ・エリア戦略の1つである「大都市圏におけるグローバル企業との取引拡大」を図るため、本年5月、関東甲信越ブロックに、オートモーティブ事業支店を設置。
 - ・機能戦略の1つである「営業力の徹底強化」を図るうえで、東・名・大の3大都市圏に、ワンストップ営業とアカウントマネジメントの中心的役割を果たす4支店をそろえ、大手グローバル顧客をターゲットとした営業拡大に取り組む。
 - ・「アカウントマネジメント対象顧客」については、推定される物流予算規模と当社の取扱い実績から、潜在的な拡大領域を分析し、お客様内でのシェアアップへ向けた、戦略的なアプローチを実施。
 - ・今年5月に設置したネットワーク商品事業本部では、陸海空一体となったネットワーク商品の開発を通じて、ワンストップ営業の更なる推進を図る。
- 第一弾として、8月に、環境に配慮した複合輸送サービス
「『NEX-NET:Sea & Rail』～東京ランドブリッジWB(WestBound)～」の販売開始。

◇海外における取組み

- ・南アジア・オセアニア地域での成長を加速させるべく、本年5月、ミャンマーに「ティラワ・ロジスティクス・センター」、インドネシアに「バリクパパン営業所」、9月には、ミャンマーに「ミャワディ事務所」、さらに、この10月には、タイに、ロジスティクス機能強化のための地域統括組織、「南アジア・オセアニア日本通運メコン開発センター」を開設。
- ・機能戦略の1つである「非日系企業への営業拡大」の取組みとして、昨年12月に、シンガポールに開設した「グローバル・ロジスティクス・イノベーションセンター」を通じて、非日系グローバル企業への営業を強化しており、着実に、新規案件を獲得。
- ・海外で買収した物流会社との協業により、非日系のハイファッション・ファストファッションブランドや自動車メーカーの業務を新たに獲得。
- ・経営トップをナショナルスタッフとした、欧州の現地法人では、非日系グローバル顧客を取り込む。
- ・8月、アフリカで初の営業拠点となる「ケニア支店」を開設。

We Find the Way



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。